

勤務医負担軽減計画

(2026年度計画)

目標

当院では、勤務医、看護師の勤務状況を把握し改善すべき点について対応してきたが、勤務医の負担軽減を進めるのにコメディカルを含めた協力体制のもと他職種への分担を進め、勤務医、看護師の負担の軽減を目標とします。

現状・問題点			
	現状の役割分担	対応方針	具体的計画
1	各職種の業務負担が明瞭、看護補助業務に時間を取られ多忙である。	厚生労働省役割分担通知（医政局出）を参考に望ましい役割分担を整理する。	各種、部署の責任者を参集し、役割分担可能な業務について整理を行う。 具体的な役割分担について職員に周知し院内に掲示する。
2	医師が事務作業補助者の配置	医師に対し医師事務作業補助者が可能な業務を伝える。 対応可能なものは実施することを徹底させ、補助者に対し研修を実施。 多忙な病棟を中心に配置しつつ、外来への配置も実施する。 各診療科の特性を意見交換の上調整、実施。	研修を行ない、レベル向上に努める。 各病棟の業務状況を把握の上、多職種との調整に努める。（医師・看護師他） 急性期病棟について1名配置。 外来へも応援するよう可能な限り対応
3	薬剤管理	医薬品情報管理室より医局医師に情報提供する 入院患者の持参薬の確認、管理 新規採用服薬情報、添付文書改訂情報、副作用情報等の医薬品情報の集約と医師への情報提供の徹底 病棟患者の服薬指導	病棟より依頼分については適宜薬剤科にて対応する。 服薬指導等を通じて把握した患者の内服情報と医薬品の副作用情報を照らし合わせ、使用方法等の確認が必要な場合の医師への情報提供の実施を行う。 患者様について病棟と医薬品情報管理が情報の共有化を推進する。 地域の通院患者も含めたパスを作成し、地域医療機関との勉強会を開催、連携の促進に努める。
4	医師、看護業務のタスクシフト・効率化	地域連携クリニカルパス導入 勤務時間を客観的に把握する。 特に医師と医師事務作業補助者、看護職員の役割分担の見直しを強化するなど、負担軽減を実施する。 勤務時間の客観的把握。 医師の始業・終業時間の管理徹底	クリニカルパスの定着を図る。 各職種が勤務時間を確実に把握する。 時間内での業務終了に努める。 医師からの指示の最終オーダー時間を午後4時とし全般的な業務改善に努める。 当直翌日の午前中の救急対応等を他医師に変更する等の調整を推進していく
5	検査レポート、生理検査レポート等の迅速な作成	医師、看護師の負担を減らすよう、さらに検査室で記載可能なものについて記載を進める。	検査レポートで必要な項目等の検証をする。